

まちなぎわいづくり一括助成事業 事業評価シート

作成年月日	平成22年10月5日	調書作成者	復興支援課 宮本
事業概要	採択年度	平成18年度	
	プロジェクト名	真野地区にぎわいづくり～下町・子育て・まち育て～	
	補助額	5,000,000円	
	事業実施団体	真野地区まちづくり推進会	
	事業期間	平成18年12月～平成20年6月	
	事業開始時の事業目的	<p>「全町まち歩き活動の展開と活用」や「エコタウンまちづくりの継続実施」等を内容とする「真野まちづくり事業計画」の具体化とその推進のために、一括助成事業を実施する。 特に、工場との共存共栄等地域の夢目的達成の共感を創り出していくとともに、まちづくりへの新しい人材の発掘も目指す。</p>	
事業実施状況	当初計画事業		当初計画どおり実施した事業
	エコタウンの取り組み事業		(左の当初計画事業の番号を記載)
	長屋の借上集会拠点事業		、 、 、 、
	町内くわしく街歩き調査事業		当初計画から変更して行った事業とその変更理由
	旧尻池市場の環境美化事業		(左の当初計画事業の番号を記載)
	交流・交歓劇場の公演事業		-
			(変更理由)
			-
			実施しなかった事業とその理由
			(左の当初計画事業の番号を記載)
		-	
		(理由)	
		-	

	当初計画していなかったが実施した事業とその理由・目的等
	-
	(実施理由・目的)
	-

実施団体による自己評価

他の補助金では対象になりにくい古いアーケード撤去費用が補助対象となり、長年の懸案を解決ができた。
また、新湊川の水質向上については、当初安全面から河川管理者の許可がなかなか下りなかったが、EM菌団子の散布により新たな展開が広がる等、事業実施による効果があった。

当初計画で設定した評価指標とその成果					
指標の達成状況	定量的評価指標		従前数値	事業終了時の数値	今後の達成の見込み・時期等
	指標1	新湊川環境美化運動参加者数	-	50名	
指標2	事業推進のためのにぎわい会議の開催回数	-	21回		事業終了後も月1回開催することで定例化を図っている。
指標3	こんにゃく長屋でのイベント実施回数	-	12回		事業終了後もこんにゃく長屋は継続設置
各指標に対する評価	事業推進のための意志決定機関であるにぎわい会議が地域のまちづくりを考える場として事業終了後も定例化していることは高く評価できる。				
指標の達成状況	定性的評価指標		従前	事業終了時	今後の達成見込み・時期等
	指標1	古いアーケード撤去による波及効果	-	地域美観向上	美観向上とともに、地域の長年の懸案であった旧尻池市場アーケード撤去問題が解決したことにより、地域内での住民間の対立関係の解消につながった。
指標2	立命館大学のゼミとの連携強化	-	ゼミ生がこんにゃく長屋を活動拠点にすることにより地域住民との連携・融合が深まった。		
指標3					
各指標に対する評価	アーケード撤去によって環境美化だけでなく、その長年の地域の懸案事項を解決したことにより、地域住民の関係が向上したことは、非常に大きな効果があったと思われる。 また、大学のゼミ生を通じての子供とお年寄りの交流についても事業を行ったことによる思わぬ大きな効果が生まれていることは高く評価できる。				

当初計画で設定されていなかったが達成度を評価できる指標とその成果		
	評価指標	成果
指標1	環境美化活動からの新しい展開	新湊川の水質向上活動について、河川管理者から安全面の問題で実施許可が下りず、進んでいなかったが、安全面をクリアできるEM菌団子を散布するという手法で活動が前進し、今後の活動の糸口をつかんだ。
指標2		
指標3		
事業実施によって事業終了後に残った成果		
成果1	地域のまちづくりを検討する会議が定例化され、事業終了後も定着。	
成果2	大学のゼミ生がまちに常にいる状態が生まれ、子供からお年寄りまでの幅広い異なる世代交流が進んだ。	
成果3	旧尻池市場のアーケード撤去問題が解決したことにより、地域美観向上だけでなく地域の中の人間関係の対立解消にもつながった。	
成果を今後地域で継続させていくための方策		
にぎわい会議において今後の事業計画を策定し、実施した事業のうち「こんにやく長屋」や新湊川の水質向上活動は継続実施していくとともに、子育て世帯へのアンケート調査などの新しい展開も行いながら、まちづくり活動を実施していく。		
今後の課題		
まちづくり活動を行うリーダーの高齢化と増加傾向にある新規住民をいかに住民主体のまちづくり活動に取り込んでいくかが課題である。		
その対処方針		
にぎわい会議において、新しい世帯をどう取り込むかを検討する。第1弾としては子育て世帯へのアンケート調査を実施していく。		
事業実施後の地域への波及効果、次なる展開		
新湊川の水質向上活動においてEM菌による手法を本事業で導入し、引き続きその手法による水質向上を進めていく。 また、増加傾向にある子育て世帯のニーズを把握するため、アンケート調査を実施し、今後のまちづくり活動に反映させていくとともに、まちづくり活動に参加するきっかけづくりとする。		

地域のまちのにぎわいはどうなったか

大型スーパーやコンビニが進出するなど地域の利便性が向上しつつあり、まとまった戸数の戸建て住宅が分譲されるなど、真野地区への若い世代の新しい住民が入ってきており、地域の小学校の新入学者も増加傾向にあり、地域のにぎわいは回復傾向にある。

地元の区の評価(所見)

当初予定の事業をすべて実施できており、事業評価指標においても、着実に効果を押し量ることができ、事業内容を高く評価できる。

また、事業終了後も、にぎわい会議が定着し、そこを中心に今後展開する地域のまちづくり活動についてもしっかりとした事業計画をもっており、さらには地域自体も人口が増加傾向にあるなど、今後更なる地域のにぎわいが生まれることを期待したい。